

最後の力をふりしぼって三たび川へ

大正十一たいしじゅう（一九二二）年の七月七日、さつき先生は昼食後の

第五時間目、四年生の担任学級五六名を引率いんそつして、白石川しろいしがわの河原へ野外写生に向かいました。

この日、欠席した生徒が十名いました。当時、家の手伝いやらで休まなければならぬ児童が多かったためです。ちなみに、当日の教職員日誌には、全校の生徒四九五名中七二名が欠席とあります。

河原へ行くには、近道があるのですが、あいにくの水溜まりたで、そこには一枚の板が渡してありました。先生は万一のことを考え、その板橋を渡らないで、桑畑の間を回り道して連れて行きました。

子どもたちは、先生の説明を受けてから、写生にとりかかりました。そばの柳並木、その先の青麻山あおせ、さらには大きく連なる蔵王ざおうの峰々の景色を思い思い

